

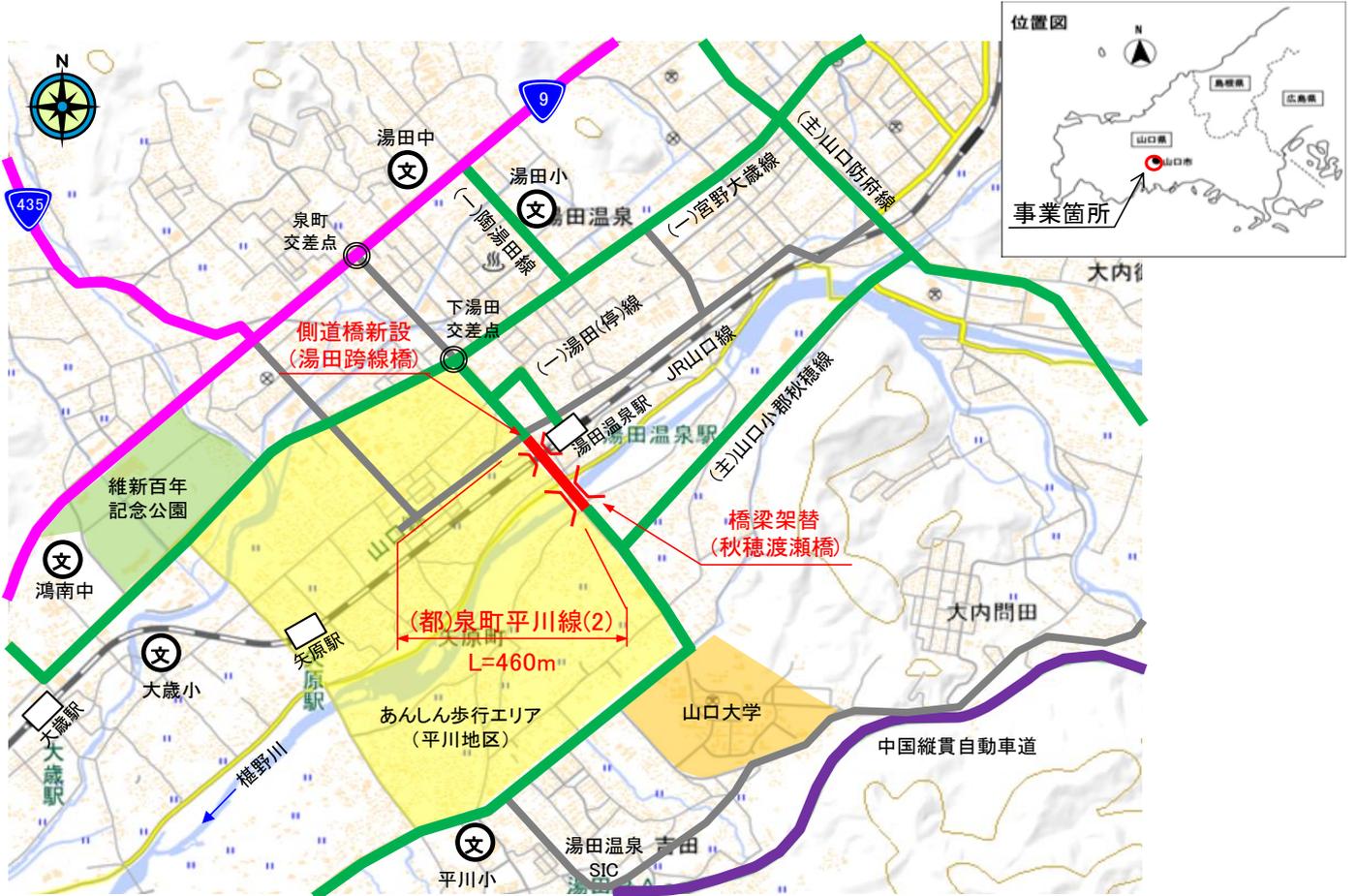
再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 (年) ○ 再評価後 (年) ● その他 (変化)						
1 事業 概要	事業名	都市計画道路 <small>いづみちよひらかわ</small> 泉町平川線 (2) 街路整備事業						
	事業場所	山口市 <small>わかみやちよう</small> 若宮町～ <small>ひらい</small> 平井 地内						
	事業主体	山口県						
	事業期間	《 前回評価 平成 24 年時 》 平成 25 年度 ～ 令和 9 年度 《 平成 31 年度 》 (西暦 2013 年度 ～ 西暦 2027 年度 《 西暦 2019 年度 》)						
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 2,500 百万円 》 3,200 百万円 (210 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	1,244 百万円 (200 百万円)	進捗率 (用地補償費)	39 % (95 %)		
	事業目的	<p>本路線は、国道9号から主要観光地の湯田温泉を通り、山口大学へ至る幹線道路である。当該区間は、JR湯田温泉駅から山口大学への主要経路であることなどから、歩行者や自転車利用者が多いにもかかわらず、歩道幅員は狭小であり、歩行者や自転車利用者は絶えず危険にさらされている。</p> <p>このため、当該区間の自転車歩行者道を整備することにより、歩行者や自転車利用者が安心して安全に利用できる通行空間を確保する。</p>						
	事業内容	<p>○延長：L=0.46km ○幅員：全幅20.0m (車道3.0m×2=6.0m、自転車歩行者道4.5m×2=9.0m) ○道路区分：第4種第2級 ○計画交通量：6,800台/日</p>						
事業効果	<p>○自転車歩行者道の整備により、当該区間を通学する児童をはじめとする、歩行者及び自転車利用者の安全性が向上する。 (歩行者351人/12h、自転車3,730台/12h (平成17年)) ○JR湯田温泉駅へ至る安全な歩行経路の確保や、バス停整備により、鉄道やバスなど公共交通機関の利便性の向上が図られる。</p>							
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	<p>本路線は、「あんしん歩行エリア(平川地区)」に含まれ、山口大学に通う学生や駅を利用する地元住民など、多くの歩行者・自転車利用者が通行しているにもかかわらず、歩道が狭小であるため、絶えず危険にさらされている。また、山口市通学路交通安全プログラムにおいて、当該区間が要対策箇所に掲げられており、事業の必要性は依然として高い。</p>				中項目評価	大項目評価
		関係市町及び地元の意向	<p>地元自治体である山口市からは毎年、当該区間の早期整備要望が寄せられており、事業推進にあたっての協力体制が整っている。 また、前後区間は整備済であり、当該区間の早期整備が期待されており、地域住民は協力的である。</p>				中項目評価	大項目評価

		(単位：百万円)				大項目 評 価				
区分	主な項目	前 回 (基準年：)	今 回(再評価・再々評価) (基準年：)		備 考					
		全体事業	全体事業	残事業						
2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果 分析等				A ・ B ・ C				
		①走行時間短縮便益	<p>当該事業は、歩行者等の安全で円滑な通行を確保するために自転車歩行者道の整備を行う事業であり、事業効果を正確に貨幣価値化することが困難であるため、費用対効果分析は行っていない。</p> <p>効果発現の評価に際しては、事業実施前後の比較を行い、その効果を分かりやすく県民に示していく。</p>							
		②走行経費減少便益								
		③交通事故減少便益								
		④その他の便益								
		総便益								
		①事業費								
		②維持管理費								
		③その他								
		総費用								
費用便益比(B/C)										
<p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【評価指標】</p> <p>死傷事故率の減少 91.7件/億台・km (過去10年間(H22~R1)の平均)</p>										
2 再評価の視点	(3) 事業の進捗	<p>用地補償については概ね完了しており、今後計画的な事業進捗が見込まれることから、引き続き、当該区間の整備を進める。</p>				大項目 評 価 A ・ B ・ C				
		<p>【事業費の変化】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>詳細設計の結果、橋梁部(秋穂渡瀬橋)における道路拡幅方法を架替に変更したことによる。</p>								
		<p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>用地補償の遅延及び橋梁架替に伴う設計・関係者調整に時間を要したことにより、事業期間を令和9年度まで延伸する。</p>								
4 対応方針	(4) 代替案等の可能性	コスト削減	発生土については、現場内利用や他工事へ流用することによりコスト削減を図る。			<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th>中項目 評 価</th> <th>大項目 評 価</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a · b</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	中項目 評 価	大項目 評 価	a · b	A
		中項目 評 価	大項目 評 価							
a · b	A									
代替案	機能面や沿道利用の観点から、既存道路を拡幅する形で都市計画決定(W=20m、2車線)されており、また、前後区間も整備済であることから、代替案の検討の余地はない。			<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th>中項目 評 価</th> <th>大項目 評 価</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a · b</td> <td style="text-align: center;">B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評 価	大項目 評 価	a · b	B ・ C		
中項目 評 価	大項目 評 価									
a · b	B ・ C									
4 対応方針	(事業実施主体案)	3 環境	配 慮 事 項	<p>○低騒音・低振動型の建設機械を使用する。</p> <p>○排水性舗装により、交通騒音の低減を図る。</p> <p>○橋梁工事に際しては、河川の汚濁防止対策を十分に行う。</p>						
		総合評価	<p>● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止</p>							
		評価理由	事業の必要性、整備効果を勘案し、事業継続が妥当と判断する。							
		備考								

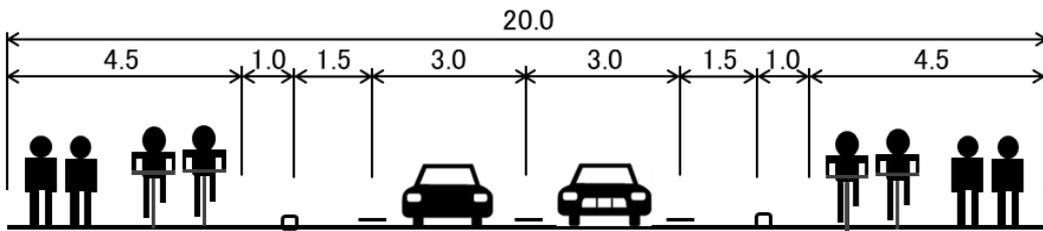
都市計画道路泉町平川線（2） 街路整備事業

位置図



※この地図は、国土地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。

標準断面図



写真



整備前の状況（秋穂渡瀬橋）



現在の整備状況（湯田跨線橋付近）